日本現代文學全集 67

# 新感覺派文學集

附 新感覺派評論集

講談社

日本現代文學全集
67

新感覺派文學集
附　新感覺派評論集

編集
伊藤　整
龜井勝一郎
中村光夫
平野　謙
山本健吉

初版　第1刷
昭和43年10月19日
增補改訂版　第1刷
昭和55年5月26日

著者
十一谷義三郎　今東光
片岡鐵兵　池谷信三郎
佐佐木茂索　菅忠雄
犬養健　鈴木彦次郎
稻垣足穗　石濱金作

裝幀　蟹江征治

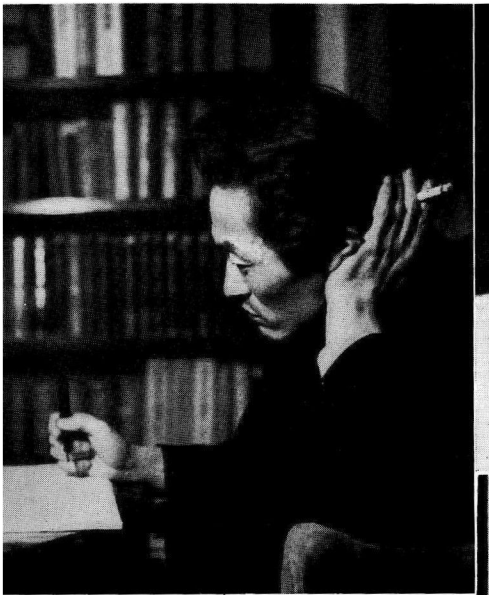
發行者　野間省一

發行所　株式會社　講談社
東京都文京區音羽2-12-21
郵便番號　112
電話東京03 (945) 1111(大代表)
振替　東京 8-3930

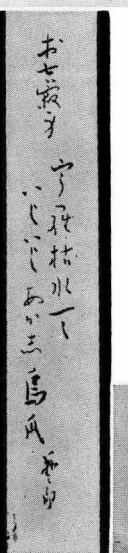
印刷　豐國印刷株式會社
製本　株式會社國寶社

落丁本・亂丁本はお取りかえいたします
Printed in Japan

0395-106677-2253 (1)　(文1)



↑昭和七年頃　十一谷義三郎



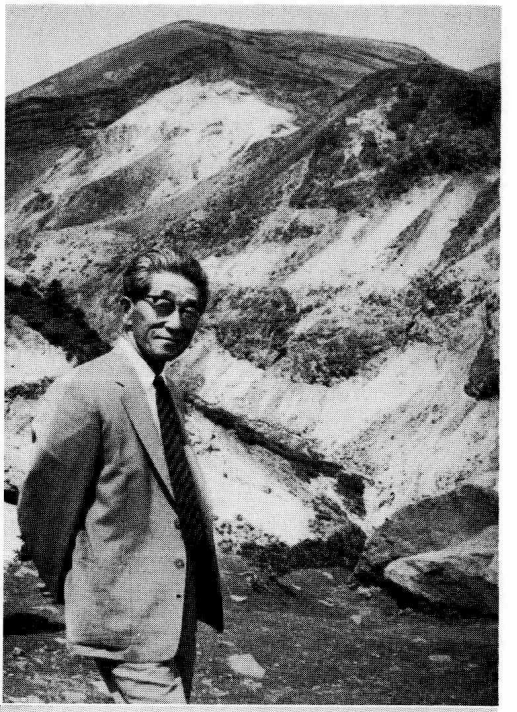
←十一谷義三郎筆蹟

↑昭和十二、三年頃　片岡鐵兵

←昭和二年一月　右　鐵兵　左　妻　光枝

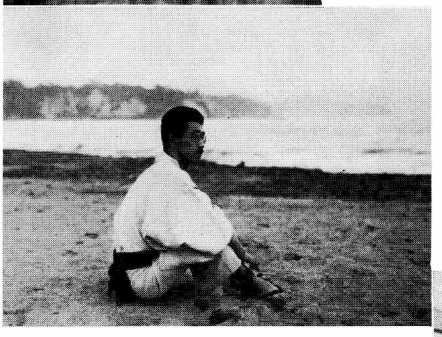
↑昭和十三年頃
右　横光利一
左　鐵兵
（撮影　川端康成）

←昭和二年頃　右から二人目　小島政二郎　岸田國士　三上於菟吉　小林秀雄　その後　佐佐木茂索　鐵兵　菊池寛　吉川英治



→昭和三十六年頃　福島縣磐梯山にて　佐佐木茂索

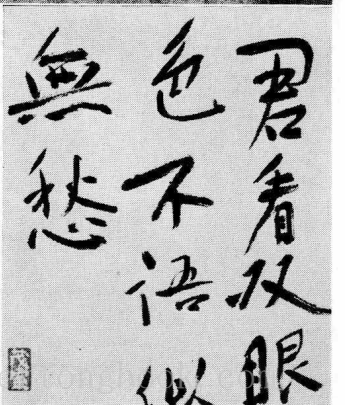
←大正十四年　右　茂索　左　妻　ふさ



←昭和四年　茂索

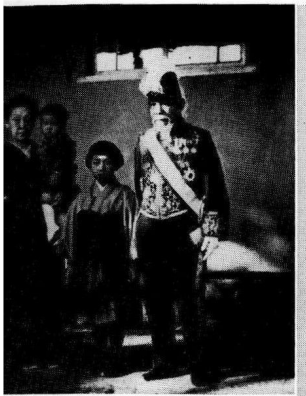
→昭和四、五年頃　右から　菊池寛　久米正雄　久米夫人　小島政二郎夫人　佐佐木ふさ　茂索

←昭和六年十一月　右から　久保田万太郎　茂索　德田秋聲　牧野信一




→佐佐木茂索筆蹟

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



→大正十年頃　大養健

←昭和六年一月　右から
父　毅　長女　道子
長男　康彦　母　せん

←昭和七年　右から三人目　父　毅　健

→昭和八年四月　右から　妻　仲子
長女　道子　長男　康彦　健

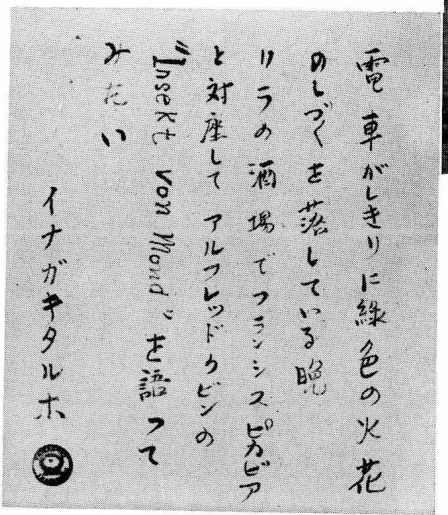
←昭和二十九年三月　中央　健

←昭和二十二年三月　東京神田にて　右から　小島政二郎　足穂　喜多武四郎　福田豐四郎　里見勝藏

→昭和三十五年三月「悲田院」（梁雅子著）出版記念會にて　右から　足穂　梁雅子　一人おいて　司馬遼太郎

→昭和四十三年十月四日　京都市伏見桃山にて　稲垣足穂

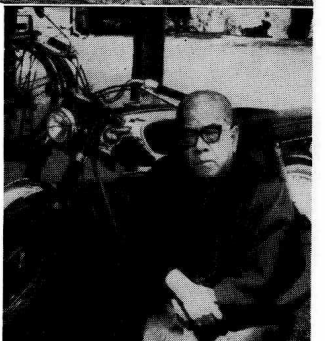
→昭和三十八年四月　右から二人目　足穂　二人おいて　妻　志代



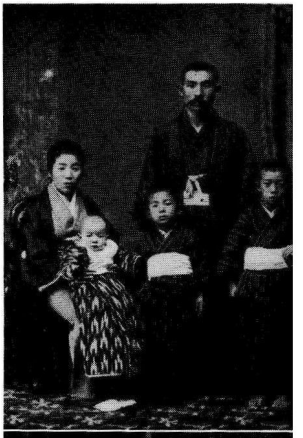
電車がしきりに緑色の火花
のしづくを落している照
りうの酒場でフランシス・ピカビア
と対座してアルフレッド・クビンの
"Insekt von Mond"を語って
みたい

イナガキタルホ

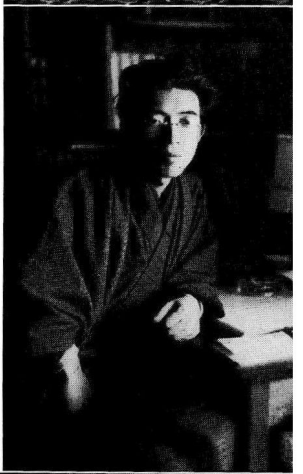
←稲垣足穂筆蹟



→昭和四十二年四月　足穂



→明治三十七年七月　北海道小樽市にて　右から　東光　父　武平　弟　文武　弟　日出海　母　あや

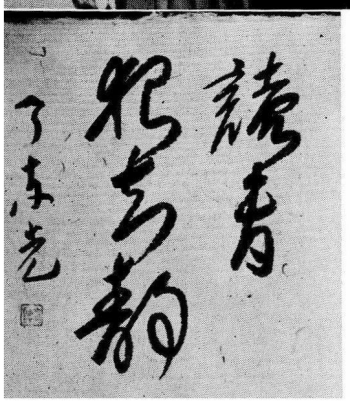


→大正十三年　東京本郷の自宅にて　東光

←昭和四十三年九月六日　今東光

←大正十四年　京都太秦スタジオにて　右から　阪東妻三郎　東光　草間實

→昭和四十年　大阪府八尾市山本球場にて　右から　東光　一人おいて　常陸宮御夫妻



←今東光筆蹟

↑大正十一年六月　ドイツ訪途の信三郎

→明治四十年頃　信三郎

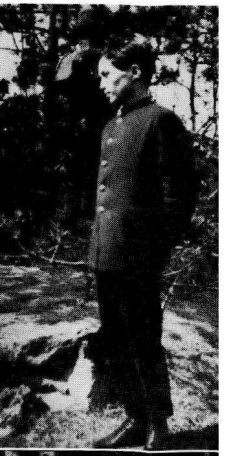
↑大正十三年十一月　池谷信三郎

←大正十二年　前列右から二人目　信三郎　一人おいて　土方與志

←昭和九年六月　改造社刊

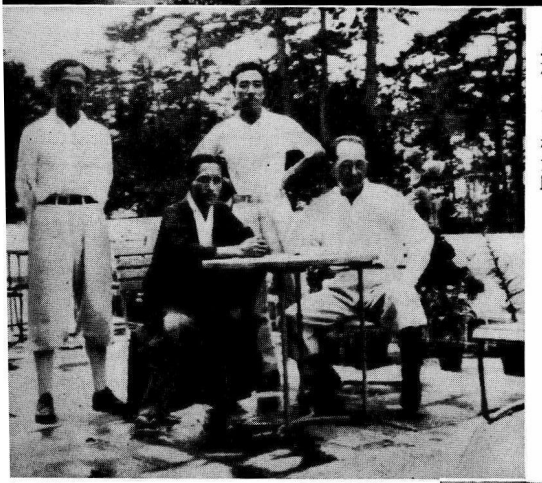
→昭和五年十月　滿洲にて　右から　直木三十五　佐佐木茂索　信三郎　一人おいて　菊池寛　横光利一

←昭和七、八年頃　菅忠雄



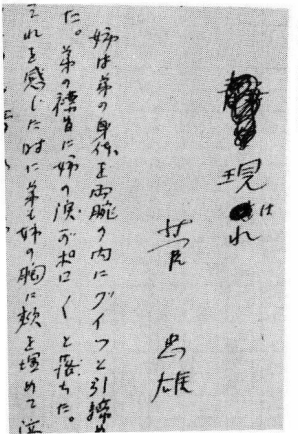
→大正六、七年頃　忠雄

←昭和六、七年頃
右から　岡田春吉　忠雄　一人おいて　岡田眞吉

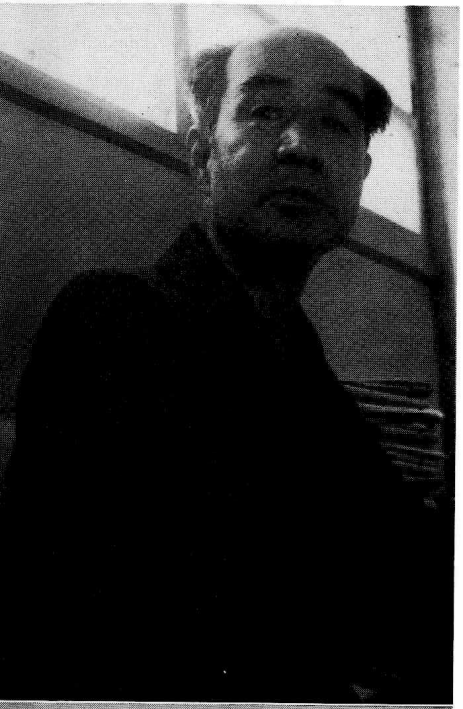


←昭和七、八年頃　右から二人目　近衛文麿
忠雄　川口松太郎

→昭和九年頃　長野縣菅平スキー場にて　右から席順に　深田久彌　一人おいて　忠雄　佐佐木ふさ　菊池寛　佐佐木茂索　永井龍男



←菅忠雄筆蹟



→昭和四十年　鈴木彦次郎

←昭和四十一年頃　石濱金作

←大正十年　前中央　川端康成　後列右から　彦次郎　南部修太郎　石濱金作

↓昭和十四年二月　東京柳橋にて　右から　席順に　彦次郎　小村雪岱　小島政二郎　冬島泰三　榊山潤

←昭和十四年　岩手縣小岩井農場にて　左端　金作

→昭和十八年三月　前から　次女　康子　長女　代々子　長男　文武　金作

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

# 新感覺派文學集　目次

卷頭寫眞


十一谷義三郎

靜　物……七
花　束……一七
青　草……二一
白樺になる男……二六
風騷ぐ……三三
あの道この道……三八
仕立屋マリ子の半生……四四

片岡　鐵兵

幽靈船……六一
生ける人形……六八

佐佐木茂索

おぢいさんとおばあさんの話……一〇五
曠　日……一〇九
選擧立會人……一一六
困つた人達……一二〇

犬養　健

牧　歌……一六八

南京六月祭……一八〇
亞剌比亞人エルアフイ……一九〇

稲垣足穂

黄漠奇聞……二〇三
星を賣る店……二三四
一千一秒物語……二四一
散歩しながら……二六〇
天文臺……二六一

今東光

軍艦……二六五
痩せた花嫁……二七三

池谷信三郎

おらんだ人形……二八五
橋……二九五

菅忠雄

銅鑼……三〇九
美しい姉の事……三一二
二つの心裡……三一六

鈴木彦次郎
宗次郎は跛だ……三三〇
七月の健康美……三三〇
石濱　金作
ある死ある生……三四〇
喜　劇……三四五

新感覺派評論集　目　次

新感覺派の誕生……三五七
若き讀者に訴ふ……三六〇
新進作家の新傾向解説……三六四
感覺活動……三六九
昨日への實感と明日への豫感……三七四
新象徴主義の基調について……三七七
末梢神經又よし……三八二
新感覺派は斯く主張す……三八七
新感覺派の表……三九一
文藝と時代感覺……三九六
止めのルフレエン……四〇〇
新感覺派とコンミニズム文學……四〇三

作品解說……瀨沼茂樹四〇七
新感覺派文學入門……保昌正夫四一五
年　譜……四二三
參考文獻……四四四

# 新感覺派文學集

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com